

H25

アクションプラン全体計画（平成23～27年度）

推進項目	13 市民との協働の推進				重要度	B		
番号・取組事業名	13001	男女共同参画の啓発推進		作成日	H25.4.1		更新日	H26.3.31
担当部署	160200	地域づくり推進部 男女共同参画室		責任者	藤田一郎太		担当者	男女共同参画担当
取組年度	H23	～	H27					
効果	その他改善							
最終目標	男女共同参画推進のための啓発事業を市民と協働で実施する。平成17年から21年度までの啓発事業への若い世代の参加割合の平均は17.2%と低調であるが、高齢社会に対応した男女共同参画の推進には若い世代の参画が不可欠である。また、平成22年度の事業仕分けにおいて、若い世代や男性に向けた啓発に取り組むべきと指摘を受けた。今後、性別にとられない家事・子育て・介護などの家庭生活や社会活動への理解を深めるために、男性とこれからの社会を担う若い世代に広く啓発することで、ワーク・ライフ・バランスの推進を目指す。							
年度	区分	取組内容・目標						
平成23年度	進んでいる	講演会講師を子育て世代に依頼したり、分科会の内容も若い世代や男性が参加しやすいものを用意するなど、企画や啓発内容の工夫に努めた。						
平成24年度	計画どおり	子育てに関する講演会を保育付きで開催した。分科会に父親が中心となって活動している団体等が参画し、交流の場を持つことができた。						
平成25年度	実施	・若い世代や男性を視点とした啓発事業の実施						
平成26年度	実施	・男女共同参画を視点とした市民意識調査の実施						
平成27年度	完了	・市民意識調査結果を踏まえた啓発事業の検討						
成果指標	指標名	啓発事業への若い世代の参加割合				単位	%	
	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	最終値	
	計画値	30.0	35.0	40.0	45.0	50.0	50.0	
	実績値	23.0	33.8	21.9				
効果額	歳入増加	計画額						0
		実績額						0
	歳出削減	計画額						0
		実績額						0
	計	計画額	0	0	0	0	0	0
		実績額	0	0	0	0	0	0
	見込まれる その他効果 (金額以外)	計画額	今まで参加が少ない男性や若い世代に、直接、ワーク・ライフ・バランスや男女共同参画について、理解促進を図ることができる。	今まで参加が少ない男性や若い世代に、直接、ワーク・ライフ・バランスや男女共同参画について、理解促進を図ることができる。	今まで参加が少ない男性や若い世代に、直接、ワーク・ライフ・バランスや男女共同参画について、理解促進を図ることができる。	今まで参加が少ない男性や若い世代に、直接、ワーク・ライフ・バランスや男女共同参画について、理解促進を図ることができる。	今まで参加が少ない男性や若い世代に、直接、ワーク・ライフ・バランスや男女共同参画について、理解促進を図ることができる。	今まで参加が少ない男性や若い世代に、直接、ワーク・ライフ・バランスや男女共同参画について、理解促進を図ることができる。
実績額								

H25

アクションプラン(平成25年度)

推進項目	13 市民との協働の推進				重要度	B			
番号・取組事業名	13001	男女共同参画の啓発推進	作成日	H25.4.1	更新日	H26.3.31			
担当部署	160200	地域づくり推進部 男女共同参画室	責任者	藤田一郎太	担当者	男女共同参画担当			
	区分	取組内容・目標							
平成25年度	実施	・若い世代や男性を視点とした啓発事業の実施							
取組項目				4～6月	7～9月	10～12月	1～3月		
1	内部での企画等の検討			○					
2	シンポジウム実行委員会立ち上げ			○					
3	実行委員会で企画内容の検討				○				
4	シンポジウムの広報・周知					○	○		
5	シンポジウムの開催, 来年度以降に向けた改善の検討						○		
6									
7									
8									
9									
10									
進捗									
上半期	進捗状況	計画どおり	コメント	第1部の企業講演の講師を初め, 全ての分科会の講師も決定し, ポスターやチラシも計画通りに仕上がる予定である。					
進捗・実績									
年度末	成果指標名	啓発事業への若い世代の参加割合		計画値	単位	%	実績値	単位	%
					40.0			21.9	
	達成状況【成果】	未達成	コメント	シンポジウムの参加者数自体は大幅に増えたものの, 40代までの参加者は昨年度に比べて減ってしまった。メインの基調講演のテーマは昨年度の(みんなで子育てーパパ ママ ジジ ババ そして地域でー)よりも, 今年度の(自分のために大切にしたい5つのこと)のほうがどちらかといえば若者向けのテーマとは思うが, 若者の参加は減ってしまった。					
	進捗状況【活動】	遅れている							
計画変更(次年度以後)	取組内容	無	コメント	若い参加者が参加したくなるような内容のシンポジウムを検討して行く。					
	計画値	無							
評価	評価者	石橋 良夫	※重要度A事業は副市長, 重要度B事業は部局長を評価者とする						
	総合評価(A・B・C)	C	コメント 指示事項	若い人が興味を引くような講師の選定など, さらに内容の改善に取り組んでいく必要がある。					
	方向性	取組み強化							

H25

アクションプラン全体計画（平成23～27年度）

推進項目	13 市民との協働の推進				重要度	B	
番号・取組事業名	13002	審議会等への女性の登用促進	作成日	H25.4.1	更新日	H26.3.31	
担当部署	160200	地域づくり推進部 男女共同参画室	責任者	藤田一郎太	担当者	男女共同参画担当	
取組年度	H23	～	H27				
効果	その他改善						
最終目標	審議会等の委員は男性が多い状況であるが、男女共同参画の視点から、政策・方針決定過程に男性と女性の双方が参画できるように審議会等で女性委員の割合が35%となることを目指す。						
年度	区分	取組内容・目標					
平成23年度	進んでいる	関係各課との連携により、平成23年10月1日現在で、計画値31%を達成した。					
平成24年度	計画どおり	関係各課との連携により、平成24年10月1日現在で、概ね計画どおりとなっている。					
平成25年度	実施	関係課との連携による審議会等への女性の登用促進に対する各担当部署への働きかけ					
平成26年度	実施	関係課との連携による審議会等への女性の登用促進に対する各担当部署への働きかけ					
平成27年度	完了	関係課との連携による審議会等への女性の登用促進に対する各担当部署への働きかけ					
成果指標	指標名	審議会等における女性委員の割合				単位	%
	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	最終値
	計画値	31.0	32.0	33.0	34.0	35.0	35.0
	実績値	31.0	31.7	35.4			
効果額	歳入増加	計画額					0
		実績額					0
	歳出削減	計画額					0
		実績額					0
	計	計画額	0	0	0	0	0
		実績額	0	0	0	0	0
見込まれる その他効果 (金額以外)	政策・方針決定過程に男性と女性の双方がバランスよく参画することで、柏市の男女共同参画を推進する効果がある。						

H25

アクションプラン(平成25年度)

推進項目	13 市民との協働の推進				重要度	B		
番号・取組事業名	13002	審議会等への女性の登用促進	作成日	H25.4.1	更新日	H26.3.31		
担当部署	160200	地域づくり推進部 男女共同参画室	責任者	藤田一郎太	担当者	男女共同参画担当		
	区分	取組内容・目標						
平成25年度	実施	関係課との連携による審議会等への女性の登用促進に対する各担当部署への働きかけ						
取組項目				4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	
1	審議会等の登用状況の把握			○				
2	選任時期に向けた登用への理解促進					○	○	
3	子育て世代の登用促進のため、会議時における保育提供の周知			○			○	
4	会議における保育の提供			○	○	○	○	
5								
6								
7								
8								
9								
10								
進捗								
上半期	進捗状況	計画どおり	コメント	広報などで開催時の保育を大きく周知したことで、子育て世代の女性から応募があり、若い女性の参画に寄与した。				
進捗・実績								
年度末	成果指標名	審議会等における女性委員の割合	計画値	単位	%	実績値	単位	%
				33.0			35.4	
	達成状況【成果】	達成	コメント	女性の審議会等への参画は年々増えてきている。また、子育て世代の審議会への参画を促すため、審議会時の保育の提供を平成24年度から始めた。いくつかの審議会では実際に子育て中の女性の参画が見られるようになった。				
	進捗状況【活動】	計画どおり						
計画変更(次年度以後)	取組内容	無	コメント					
	計画値	無						
評価	評価者	石橋 良夫	※重要度A事業は副市長、重要度B事業は部局長を評価者とする					
	総合評価(A・B・C)	B	コメント 指示事項	今後も審議会等への女性の登用を積極的に進めていく必要があり、継続して実施していく。				
	方向性	継続実施						

H25

アクションプラン全体計画（平成23～27年度）

推進項目	13 市民との協働の推進				重要度	A		
番号・取組事業名	13003	市民大学事業		作成日	H25.4.1		更新日	H26.3.31
担当部署	160300	地域づくり推進部 協働推進課		責任者	窪井 公輔		担当者	土屋 政人
取組年度	H23	～	H27					
効果	その他改善							
最終目標	<p>・市民との協働を推進するにあたり、人材発掘・人材育成を目的とした「市民大学事業」を実施する。 ・市民大学事業では柏の5～10年先を考え、行動する市民の活動の場づくり、まちづくりの担い手づくりを目的とする。</p>							
年度	区分	取組内容・目標						
平成23年度	計画どおり	10月に「柏市民ができる災害対策活動を考える」クラスを開講。						
平成24年度	計画どおり	9月に「柏市民ができる災害対策活動を考える」クラス修了。7月に「地活マイスター養成講座【基礎編】」、「柏市プロデュース大作戦」、「柏市のFacebookをつくろう！」の3クラスを開講し、3月に修了した。						
平成25年度	実施	・定期的に講座を実施し、市民大学の定着を目指す。						
平成26年度	実施	・前年度までの実績をもとに事業の見直しを行いながら、市民大学の定着と促進を目指す。						
平成27年度	完了	・講座の継続。						
成果指標	指標名	地域活動等に参加する新たな人材の発掘				単位	人	
	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	最終値	
	計画値	30	50	70	90	100	100	
	実績値	17	74	117				
効果額	歳入増加	計画額						0
		実績額						0
	歳出削減	計画額						0
		実績額						0
	計	計画額	0	0	0	0	0	0
		実績額	0	0	0	0	0	0
見込まれる その他効果 (金額以外)	市民との協働の推進及び地域コミュニティの活性化(人づくり・まちづくり)		市民との協働の推進及び地域コミュニティの活性化(人づくり・まちづくり)		市民との協働の推進及び地域コミュニティの活性化(人づくり・まちづくり)		市民との協働の推進及び地域コミュニティの活性化(人づくり・まちづくり)	

H25

アクションプラン(平成25年度)

推進項目	13 市民との協働の推進				重要度	A		
番号・取組事業名	13003	市民大学事業	作成日	H25.4.1	更新日	H26.3.31		
担当部署	160300	地域づくり推進部 協働推進課	責任者	窪井 公輔	担当者	土屋 政人		
	区分	取組内容・目標						
平成25年度	実施	・定期的に講座を実施し、市民大学の定着を目指す。						
取組項目				4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	
1	市民大学の運営管理(運営委員会の開催、進捗管理、次年度クラスの決定等)			○	○		○	
2	平成25年度開講クラスの運営(計3クラス)			○	○	○	○	
3								
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								
進捗								
上半期	進捗状況	計画どおり	コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・3クラスとも計画どおり、カリキュラムを実施している。来年3月の成果報告に向けてコーディネーター及び担当課と連携協力している。 ・運営管理も概ね計画どおりで推進委員会を通じて各委員と意見交換を図り、次年度クラスの決定等を図っている。 				
進捗・実績								
年度末	成果指標名	地域活動等に参加する新たな人材の発掘	計画値	単位	人	実績値	単位	人
				70			117	
	達成状況【成果】	達成	コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も3クラス実施し、43名の卒業生を輩出している。大学における学びを卒業後、地域で実践していくことを期待する。 				
	進捗状況【活動】	計画どおり						
計画変更(次年度以後)	取組内容	無	コメント					
	計画値	無						
評価	評価者	関口 隆明	※重要度A事業は副市長、重要度B事業は部局長を評価者とする					
	総合評価(A・B・C)	B	コメント 指示事項	参加者は確保されており関心度は高いと思う。テーマはその時々 のニュースソースと市民活動を結び付けられるものが良いと思う が、今後もテーマ設定について工夫してください。				
	方向性	継続実施						

H25

アクションプラン(平成25年度)

推進項目	13 市民との協働の推進				重要度	A		
番号・取組事業名	13004	地域づくり推進事業	作成日	H25.4.1	更新日	H26.3.31		
担当部署	160400	地域づくり推進部 地域支援課	責任者	窪井 公輔	担当者	牧野共子		
	区分	取組内容・目標						
平成25年度	実施	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりや人づくりを進めていく。 ・地域活動, 市民活動等に新たに参加する人材を発掘する。 						
取組項目				4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
1	地域課題解決型事業実施の支援			○	○	○	○	
2	地域活性化モデル事業の充実			○	○	○	○	
3	地域づくり推進委員研修会				○		○	
4	実施事業の分析, 先進事例情報収集等			○	○	○	○	
5								
6								
7								
8								
9								
10								
進捗								
上半期	進捗状況	計画どおり	コメント	市内町会等の12団体13事業について「柏市地域活動支援補助金」を活用して, 地域住民主導による課題解決が図られている。担当課では, その進捗状況を確認し, 適宜助言等を行なっている。また, 各ふるさと協議会に選任をお願いしている地域づくり推進員の情報交換会を9月に行った。				
進捗・実績								
年度末	成果指標名	地域活動等に参加する新たな人材の発掘	計画値	単位	人	実績値	単位	人
				40			22	
	達成状況【成果】	未達成	コメント	各コミュニティエリアにおいて, ふるさと協議会と進めている地域づくり推進事業では, 4事業が「地域活動支援補助金」を活用する等, 地域課題解決のための取り組みは継続している。しかしながら, 事業の展開が不十分で, 新たな人材確保までは至っていない。しかしながら, イベント「OYAJI☆INNOVATION」の実施及び同時期の「柏おやじ図鑑」発行により, 地域活動を奨励する取り組みについては, メディアの注目度も高く, 多いに発信できた。				
	進捗状況【活動】	遅れている						
計画変更(次年度以後)	取組内容	無	コメント					
	計画値	無						
評価	評価者	関口 隆明	※重要度A事業は副市長, 重要度B事業は部局長を評価者とする					
	総合評価(A・B・C)	C	コメント 指示事項	本事業の趣旨などの周知や, 核となる人の発掘にさらに努力が必要である。				
	方向性	取組み強化						

H25

アクションプラン全体計画（平成23～27年度）

推進項目	13 市民との協働の推進				重要度	B		
番号・取組事業名	13005	ストップ温暖化サポーター事業等の推進	作成日	H25.4.1	更新日	H26.3.31		
担当部署	080500	環境部 環境保全課	責任者	原田明廣	担当者	環境保全		
取組年度	H23	～	H27					
効果	歳出削減	その他改善						
最終目標	<p>温暖化防止対策を推進するため、市民が活動している「かしわ環境ステーション運営協議会」や「ストップ温暖化サポーター」が主体で行っている温暖化対策事業の拠点となる『地球温暖化防止活動センター』を設置するとともに、柏市の温暖化対策を集約したWEBサイトを構築し、市民の参画・参加を得ながら普及啓発を図る。</p> <p>センター立上時には、柏市環境保全協議会などの事業者会員加入により、市の委託料が削減できる 80会員×2千円＝160千円</p>							
年度	区分	取組内容・目標						
平成23年度	計画どおり	「かしわ環境ステーション」や「SOS事業」で実施されている温暖化防止対策事業に加え、センター設置時に必要となる温暖化防止の専用WEBサイトを立ち上げた。						
平成24年度	計画どおり	温暖化防止活動団体の活動事業充実						
平成25年度	実施	センターの開設と温暖化防止活動の推進						
平成26年度	実施	温暖化防止活動の推進						
平成27年度	完了	温暖化防止活動の推進						
成果指標	指標名	温暖化防止の普及啓発事業の回数				単位	事業数	
	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	最終値	
	計画値	10	10	20	25	30	30	
	実績値	12	10	8				
効果額	歳入増加	計画額					0	
		実績額					0	
	歳出削減	計画額	0	0	160	160	160	480
		実績額	0		160			160
	計	計画額	0	0	160	160	160	480
		実績額	0	0	160	0	0	160
見込まれる その他効果 (金額以外)	<p>柏市の温暖化活動及び各団体の活動状況の提供並びに市民が温暖化防止活動から情報提供を得る</p> <p>温暖化防止活動団体の充実を図る。</p> <p>カーボンオフセット制度の導入など新たな取組により、家庭等から排出される温室効果ガスの削減が見込まれる</p> <p>カーボンオフセット制度の導入など新たな取組により、家庭等から排出される温室効果ガスの削減が見込まれる</p> <p>カーボンオフセット制度の導入など新たな取組により、家庭等から排出される温室効果ガスの削減が見込まれる</p>							

H25

アクションプラン(平成25年度)

推進項目	13 市民との協働の推進				重要度	B			
番号・取組事業名	13005	ストップ温暖化サポーター事業等の推進	作成日	H25.4.1	更新日	H26.3.31			
担当部署	080500	環境部 環境保全課	責任者	原田明廣	担当者	環境保全			
	区分	取組内容・目標							
平成25年度	実施	センターの開設と温暖化防止活動の推進							
取組項目				4～6月	7～9月	10～12月	1～3月		
1	かしわ環境ステーション各種環境学習講座の実施			○	○	○	○		
2	ストップ温暖化サポーター出前講座				○	○	○		
3	ストップ温暖化サポーター緑のカーテン普及啓発事業			○	○	○			
4	かしわ環境ステーションのNPO法人化に向けた作業			○	○				
5									
6									
7									
8									
9									
10									
進捗									
上半期	進捗状況	計画どおり	コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ストップ温暖化サポーター緑のカーテン普及啓発事業については緑のカーテン育て方説明会を実施。市内110世帯に苗を配布。 ・かしわ環境ステーションのNPO法人化に向けた作業は完了し、NPO法人とした。 					
進捗・実績									
年度末	成果指標名	温暖化防止の普及啓発事業の回数		計画値	単位	事業数	実績値	単位	事業数
					20			8	
	達成状況【成果】	一部達成	コメント	温暖化防止活動団体である「柏市ストップ温暖化サポーター」を中心に温暖化防止の普及啓発活動を行った。緑のカーテン普及啓発事業やかしわ環境フェスタは、多くの来場者があり、温暖化防止について考えてもらう機会となった。 かしわ環境ステーションのNPO法人化が完了し、各種環境学習講座を実施したことによって、市民への温暖化対策の啓発に寄与した。					
	進捗状況【活動】	計画どおり							
計画変更(次年度以後)	取組内容	無	コメント						
	計画値	無							
評価	評価者	伊原 優	※重要度A事業は副市長、重要度B事業は部局長を評価者とする						
	総合評価(A・B・C)	B	コメント 指示事項	柏市地球温暖化対策計画の改訂を受け、今後様々な対策を実施していかなければならず、その中で市民との協働はますます重要になる。新たな受け皿を探すことも必要になるが、まずは今ある組織を充実させていくことを検討し、事業の取組みを強化していく。					
	方向性	取組み強化							

H25

アクションプラン全体計画（平成23～27年度）

推進項目	13 市民との協働の推進				重要度	B		
番号・取組事業名	13006	柏市生きもの多様性プランの推進		作成日	H25.4.1		更新日	H26.3.31
担当部署	080500	環境部 環境保全課		責任者	原田明廣		担当者	環境保全
取組年度	H23	～	H27					
効果	その他改善							
最終目標	『柏市生きもの多様性プラン』に基づく、生物多様性の保全、再生を目指す。							
年度	区分	取組内容・目標						
平成23年度	進んでいる	生きもの多様性プランに沿った施策の実施						
平成24年度	計画どおり	生きもの多様性プランに沿った施策の実施						
平成25年度	実施	生きもの多様性プランに沿った施策の実施						
平成26年度	実施	生きもの多様性プランに沿った施策の実施						
平成27年度	完了	生きもの多様性プランに沿った施策の実施						
成果指標	指標名	人里の生きものの種類・生き物多様性重要地区の保全状況				単位	種類数・状況	
	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	最終値	
	計画値	動物153種 植物196種	動物153種 植物196種	動物153種 植物196種	動物153種 植物196種	動物153種 植物196種	動物153種 植物196種	
	実績値	動物153種 植物197種	動物153種 植物197種	動物153種 植物196種				
効果額	歳入増加	計画額	0	0	0	0	0	0
		実績額						
	歳出削減	計画額	0	0	0	0	0	0
		実績額						
	計	計画額	0	0	0	0	0	0
		実績額	0	0	0	0	0	0
見込まれる その他効果 (金額以外)	生きもの多様性を保全できる環境を将来にわたって有することであり自然からの恵沢を将来に継承できる。							

H25

アクションプラン(平成25年度)

推進項目	13 市民との協働の推進				重要度	B	
番号・取組事業名	13006	柏市生きもの多様性プランの推進	作成日	H25.4.1	更新日	H26.3.31	
担当部署	080500	環境部 環境保全課	責任者	原田明廣	担当者	環境保全	
	区分	取組内容・目標					
平成25年度	実施	生きもの多様性プランに沿った施策の実施					
取組項目				4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
1	増尾の森管理組織立ち上げ, 管理, 観察会の実施			○	○	○	○
2	生きもの環境影響評価制度の検討			○	○	○	○
3	生きもの多様性重要地区の継続調査とカルテ作成			○	○	○	○
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
進捗							
上半期	進捗状況	計画どおり	コメント	増尾の森管理組織立ち上げについては準備会という形から始動することとなったが観察会を実施した。生き物多様性重要地区の継続調査とカルテ作成は順調に進んでいる。			
進捗・実績							
年度末	成果指標名	人里の生きものの種類・生き物多様性重要地区の保全状況		計画値	単位 動物153種 植物196種	実績値	単位 動物153種 植物196種
	達成状況【成果】	達成	コメント	増尾の森管理組織立ち上げについては準備会という形から始動することとなったが観察会及び自然調査を実施した。生き物多様性重要地区の継続調査とカルテ作成を行い, カルテは現在までに27箇所作成された。			
	進捗状況【活動】	計画どおり					
	計画変更(次年度以後)	取組内容	無	コメント			
計画値		無					
評価	評価者	伊原 優	※重要度A事業は副市長, 重要度B事業は部局長を評価者とする				
	総合評価(A・B・C)	B	コメント 指示事項	市内の自然が残されている地区に対する施策は, その地区の特性, 背景等を加味して実施していく。			
	方向性	継続実施					

H25

アクションプラン全体計画（平成23～27年度）

推進項目	13 市民との協働の推進				重要度	B	
番号・取組事業名	13007	消防団運営事業		作成日	H25.4.1	更新日	H26.3.31
担当部署	400100	消防局総務課		責任者	村井 浩	担当者	消防団担当
取組年度	H23	～	H27				
効果	その他改善						
最終目標	「自らの地域は自ら守る」という郷土愛護の精神に基づき、市民の安心・安全を守るための組織の確立。						
年度	区分	取組内容・目標					
平成23年度	計画どおり	団員による新たなる担い手募集活動により、条例定数は確保が出来た。広報かしわ、消防局HPにより消防団への理解の促進が進み、救命サポート隊の活動による応急手当指導の普及促進が図られた。					
平成24年度	計画どおり	東日本大震災を教訓に消防団の必要性が再度見直されTVやラジオ消防局HPやポスターパンフレット等の活用また救命サポート隊の応急手当指導が増えたことにより住民へのPR活動ができた。					
平成25年度	実施	女性消防団員を採用し、各種消防団活動の広報(PR)の充実、救命サポート隊による救命率の向上					
平成26年度	実施	条例定数の確保、各種消防団活動の広報(PR)の充実、救命サポート隊による救命率の向上					
平成27年度	完了	条例定数の確保、各種消防団活動の広報(PR)の充実、救命サポート隊による救命率の向上					
成果指標	指標名	消防団員の定数確保				単位	人
	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	最終値
	計画値	617	617	631	631	631	631
	実績値	617	617	631			0
効果額	歳入増加	計画額					0
		実績額					0
	歳出削減	計画額					0
		実績額					0
	計	計画額	0	0	0	0	0
		実績額	0	0	0	0	0
見込まれる その他効果 (金額以外)	消防団員数の確保による、災害に強いまちづくり・ひとづくりの向上	同左	女性消防団員の採用による災害等地域住民への対応の向上	同左	同左		

H25

アクションプラン(平成25年度)

推進項目	13 市民との協働の推進			重要度	B		
番号・取組事業名	13007	消防団運営事業	作成日	H25.4.1		更新日	H26.3.31
担当部署	400100	消防局総務課	責任者	村井 浩		担当者	消防団担当
	区分	取組内容・目標					
平成25年度	実施	女性消防団員を採用し、各種消防団活動の広報(PR)の充実、救命サポート隊による救命率の向上					
取組項目			4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	
1	消防団と自主防災組織との協働化の推進		○	○	○	○	
2	消防団と事業所の協力体制の推進(消防団協力事業所表示証交付)		○	○			
3	消防団協力事業所表示証に関するPR(推薦及び募集)		○	○	○	○	
4	消防団活動の広報(PR)の充実(柏市消防団年間事業の情報提供)		○	○	○	○	
5	救命サポート隊による応急手当(普通救命講習含)の普及率向上		○	○	○	○	
6	女性消防団員の採用		○	○	○	○	
7							
8							
9							
10							
進捗							
上半期	進捗状況	計画どおり	コメント	消防団と自主防災組織との協働化の推進は、地域の防災訓練を通じて継続的に行っていく。消防団と事業所の協力体制の推進において消防団協力事業所表示証交付事業所はないが、通年で広報紙、ホームページでPRを実施していく。消防団活動の広報を広報紙、ホームページ上で積極的に随時情報提供を行っている。救命サポート隊による応急手当の普及活動を通年で実施している。女性消防団員の採用は、条例の定数を改正し、14名の定数増分をあらゆる広報媒体を活用し募集活動を行う。			
進捗・実績							
年度末	成果指標名	消防団員の定数確保		計画値	単位 631	実績値	単位 631
	達成状況【成果】	達成	コメント	消防団と自主防災組織等との協働化は継続して推進していく。消防団と事業所の協力体制の推進において消防団協力事業所表示証交付事業所の今年度の交付は無かったので、積極的にPRを行っていく。消防団の事業についてホームページ等でPRしたが、消防団活動を理解してもらうため、今後より効果的なPR活動をしていく。応急手当普及指導を継続的に実施したが、今後地域へ積極的に展開していく。女性消防団員を公募により14名採用決定した。今後研修、訓練等を行い消防団活動を通じ、市民へ防火防災活動を展開していく。			
	進捗状況【活動】	計画どおり					
	計画変更(次年度以後)	取組内容	無	コメント			
計画値		無					
評価	評価者	羽石 清二	※重要度A事業は副市長、重要度B事業は部局長を評価者とする				
	総合評価(A・B・C)	B	コメント 指示事項	・出初式会場を集客率が高いショッピングモール駐車場で実施したことで、例年より多くの市民の方々にお越しいただけたことから、消防の取組みを広く市民にPRできたものと評価します。 ・平成26年度女性消防団員の発足により、今後も地域に最も身近な防災機関として、さらに活躍することを期待しています。			
	方向性	継続実施					

H25

アクションプラン全体計画（平成23～27年度）

推進項目	13 市民との協働の推進				重要度	B	
番号・取組事業名	13008	協働事業提案制度	作成日	H25.4.1	更新日	H26.3.31	
担当部署	160300	地域づくり推進部 協働推進課	責任者	高橋 直資	担当者	恒岡 真由美	
取組年度	H24	～	H25				
効果	その他改善						
最終目標	協働事業提案制度による協働事業採択件数が毎年度3件を目指し、市民との協働の促進を図る。市民団体の提案により、市の既存事業の改善について図る制度とする。						
年度	区分	取組内容・目標					
平成23年度							
平成24年度	進んでいる	行政指定テーマの提案も含め、提案件数と採択件数が増加した。					
平成25年度	完了 (事業終了)	提案件数2件に対し、1件が採択となった。					
平成26年度							
平成27年度							
成果指標	指標名	協働事業提案制度による協働事業採択件数				単位	件
	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	最終値
	計画値		3	3			3
	実績値		3	1			0
効果額	歳入増加	計画額					0
		実績額					0
	歳出削減	計画額					0
		実績額					0
	計	計画額	0	0	0	0	0
		実績額	0	0	0	0	0
見込まれる その他効果 (金額以外)		庁内における協働の推進	庁内における協働の推進と既存事業の見直しの視点				

H25

アクションプラン(平成25年度)

推進項目	13 市民との協働の推進				重要度	B		
番号・取組事業名	13008	協働事業提案制度	作成日	H25.4.1	更新日	H26.3.31		
担当部署	160300	地域づくり推進部 協働推進課	責任者	高橋 直資	担当者	恒岡 真由美		
	区分	取組内容・目標						
平成25年度	完了 (事業終了)	提案件数2件に対し、1件が採択となった。						
取組項目				4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	
1	行政指定テーマの実施			○	○	○	○	
2	市民団体への周知			○			○	
3								
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								
進捗								
上半期	進捗状況	計画どおり	コメント	平成25年度の提案の受付け、審査を予定通りに実施した。また、昨年度、審査を通過した事業の実施状況の確認を行った。				
進捗・実績								
年度末	成果指標名	協働事業提案制度による協働事業採択件数	計画値	単位	件	実績値	単位	件
				3			1	
	達成状況【成果】	一部達成	コメント	成果指標は計画値に達しなかったが、平成24年度に採択された行政指定テーマを実施することができた。また、協働事業提案制度が活用しやすいように手引きの見直し、変更を行うことができた。なお、アクションプランとしての取組みは完了とするが、事業や取組みを終了するわけではない。				
	進捗状況【活動】	完了 (事業終了)						
計画変更 (次年度以後)	取組内容	無	コメント					
	計画値	無						
評価	評価者	石橋 良夫	※重要度A事業は副市長、重要度B事業は部局長を評価者とする					
	総合評価(A・B・C)	C	コメント 指示事項	平成25年度に行った手引きの見直し等を踏まえ、この制度の周知を積極的に行い、よりよい協働事業の実施に結び付けていく。				
	方向性	継続実施						

H25

アクションプラン全体計画（平成23～27年度）

推進項目	13 市民との協働の推進				重要度	B	
番号・取組事業名	13009	市民との協働による講座の企画		作成日	H25.4.1		
担当部署	281100	生涯学習部中央公民館		責任者	海老原謙一		
取組年度	H24	～	H27				
効果	その他改善						
最終目標	<p>公民館には、個人の要望や社会の要請に応える(教育基本法第13条)「ことができるよう、多種・多様な事業を展開することが求められているが、厳しい財政状況のなかで、新しい時代を切り拓く生涯学習を推進していくためには、少ない費用で質の高い事業を行う、いわゆるコストパフォーマンスを高めていくことが必要である。また、学習機会の提供事業(講座)には、市民が主体的に地域の課題の解決に取り組み、市民相互の仲間づくりや支えあう機運を醸成していくことが求められている。</p> <p>「市民との協働」は市政運営の主要な柱であるが、公民館事業はまさに協働事業としやすい分野であり、より効果的に実施できる分野である。このため、関係機関や団体との連携や参画機会を拡大し、市民が意欲的に取り組める学習環境の充実を図るとともに生涯学習事業をまちづくりにつなげていくことを目指す。</p>						
年度	区分	取組内容・目標					
平成23年度							
平成24年度	計画どおり	協働、連携の情報収集を進めることにより、地域課題の精査を図る。					
平成25年度	実施	協働、連携の情報収集を進めることにより、地域課題の精査を図る。					
平成26年度	実施	協働、連携の情報収集を進めることにより、地域課題の精査を図る。					
平成27年度	完了	協働、連携の情報収集を進めることにより、地域課題の精査を図る。					
成果指標	指標名	連携事業実施回数				単位	回
	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	最終値
	計画値		3	3	3	3	3
	実績値		4	5			0
効果額	歳入増加	計画額					0
		実績額					0
	歳出削減	計画額					0
		実績額					0
	計	計画額	0	0	0	0	0
		実績額	0	0	0	0	0
見込まれる その他効果 (金額以外)	<p>市民団体等との調整や事業の見直しを通して、公民館の果たすべき機能を再確認及び重点化できる。</p> <p>市民団体等との調整や事業の見直しを通して、公民館の果たすべき機能を再確認及び重点化できる。</p> <p>市民団体等との調整や事業の見直しを通して、公民館の果たすべき機能を再確認及び重点化できる。</p> <p>市民団体等との調整や事業の見直しを通して、公民館の果たすべき機能を再確認及び重点化できる。</p> <p>市民団体等との調整や事業の見直しを通して、公民館の果たすべき機能を再確認及び重点化できる。</p> <p>市民団体等との調整や事業の見直しを通して、公民館の果たすべき機能を再確認及び重点化できる。</p>						
スピード・コスト・成果を重視する「行政改革」の目的意識を持って業務に取り組む職員の育成							

H25

アクションプラン(平成25年度)

推進項目	13 市民との協働の推進				重要度	B			
番号・取組事業名	13009	市民との協働による講座の企画	作成日	H25.4.1	更新日	H26.3.31			
担当部署	281100	生涯学習部中央公民館	責任者	海老原謙一	担当者	早川千恵美			
	区分	取組内容・目標							
平成25年度	実施	協働、連携の情報収集を進めることにより、地域課題の精査を図る。							
取組項目				4～6月	7～9月	10～12月	1～3月		
1	連携・協働事業(講座や教室)の企画内容を検討			○		○			
2	連携・協働が可能な団体・組織との折衝と合意形成(企画内容や目的)			○		○			
3	実施に至るまでの役割分担を確認			○		○			
4	講師の依頼			○		○			
5	連携・協働事業の周知			○		○			
6	連携・協働事業の開催(事業のアンケート調査)				○		○		
7	アンケートの分析				○		○		
8									
9									
10									
進捗									
	上半期	進捗状況	計画どおり	コメント	NPOや関係団体等との協働・連携を進め、地域課題の精査・把握に努めている。 上半期は、6月に柏市立幼稚園協会と連携して家庭教育講座を実施した。下半期は、10月にわくわく人形劇まつりや12月に家庭教育講座の実施を予定している。				
進捗・実績									
		成果指標名	連携事業実施回数	計画値	単位	回	実績値	単位	回
					3		5		
	年度末	達成状況【成果】	達成	コメント	家庭教育事業では柏市私立幼稚園協会との連携事業として、講演会を行った。また、柏市に活動拠点を置く、子育て支援団体NPO子どもすぺーす柏・「子どもの文化連絡会」との連携も進めた。それぞれの講座を通して公民館とNPO等の連携を進め、実績を修めた。地域づくり事業として、市民自主企画講座を実施し、連携を進めながら、様々な分野を対象に、地域で活動する関係団体との連携や活動支援を進めながら、課題解決への方向性の共通認識を図った。				
		進捗状況【活動】	計画どおり						
		計画変更(次年度以後)	取組内容	無	コメント				
		計画値	無						
評価	評価者	藤江 美紀雄	※重要度A事業は副市長、重要度B事業は部局長を評価者とする						
	総合評価(A・B・C)	B	コメント 指示事項	公民館には、子育て支援に関わる学習機会や高齢者の生きがいづくりなどの地域課題・現代的課題への取組みが求められている。今後も関係団体との連携・協力の質を高め、事業の充実を図りたい。					
	方向性	継続実施							

H25

アクションプラン全体計画（平成23～27年度）

推進項目	13 市民との協働の推進				重要度	B		
番号・取組事業名	13010	柏市猫の不妊去勢手術助成事業		作成日	H25.4.1		更新日	H26.3.31
担当部署	06170	保健所 生活衛生課		責任者	林 亨		担当者	動物愛護担当
取組年度	H24	～	H27					
効果	その他改善							
最終目標	市内で野良猫に関する苦情(近隣への糞尿等被害, 無責任な餌やりによる住民トラブル, 繁殖による猫の増加等)は後を絶たず, 保健所が受ける苦情の中で上位を占めている。また, 年間数百匹の野良猫の子猫が保健所に持ち込まれ, その多くが殺処分されている。それにも関わらず, 猫の場合は犬と異なり規制する法令等がないため, 餌やりの禁止や繁殖制限の手術等を強制することは出来ない。そこで, 野良猫を適正に管理する活動を行う団体(市が定める要件を満たす団体)に対し, 不妊去勢手術助成金を交付することにより, 望まれない命の誕生の阻止を図り, 猫に起因する問題を減らすことを最終目標とする。							
年度	区分	取組内容・目標						
平成23年度								
平成24年度		飼い猫及び地域猫(登録団体が管理する野良猫)に対する手術代の一部助成						
平成25年度	実施	地域猫(登録団体が管理する野良猫)に対する手術代の一部助成						
平成26年度	実施	内容については未定(平成25年度の検討結果を踏まえて実施)						
平成27年度	完了	内容については未定						
成果指標	指標名	交付決定件数(匹数)				単位	件(匹数)	
	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	最終値	
	計画値		120	150			0	
	実績値		197	201			0	
効果額	歳入増加	計画額					0	
		実績額					0	
	歳出削減	計画額					0	
		実績額					0	
	計	計画額	0	0	0	0	0	0
		実績額						0
見込まれる その他効果 (金額以外)		野良猫に関する苦情数の減少	繁殖制限による子猫引取り数の減少, 野良猫に関する苦情件数の減少					

H25

アクションプラン(平成25年度)

推進項目	13 市民との協働の推進				重要度	B	
番号・取組事業名	13010	柏市猫の不妊去勢手術助成事業	作成日	H25.4.1	更新日	H26.3.31	
担当部署	06170	保健所 生活衛生課	責任者	林 亨	担当者	動物愛護担当	
	区分	取組内容・目標					
平成24年度	実施	地域猫(登録団体が管理する野良猫)に対する手術代の一部助成					
取組項目				4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
1	新たな活動団体, 野良猫が問題となっている地域の発掘			○	○	○	○
2	既に登録されている団体への支援継続			○	○	○	○
3	「地域猫活動」の周知と啓発活動				○		
4	今後どのような方法で事業を行うか, 有効な手段の検討			○	○	○	○
5							
6							
7							
8							
9							
10							
進捗							
上半期	進捗状況	計画どおり	コメント	交付決定実績 65匹(オス:28匹, メス:37匹)			
進捗・実績							
年度末	成果指標名	交付決定件数(匹数)		計画値	単位 件(匹数) 150	実績値	単位 件(匹数) 201
	達成状況【成果】	達成	コメント	平成25年度になり事業内容を幅広く周知したことで, 新たに19の地域猫団体登録申請があったのは大きな成果であった。計32団体となり, 団体数が増えたことで猫の捕獲, 手術等の活動拠点が広がり, より多くの猫の手術を実施し, 今年度予算を無駄なく使い切ることが出来た。今後は, 一層の周知活動はもちろん, 既に登録済の団体に対しても, 活動を継続していくモチベーションの維持につながるようなバックアップをしていきたい。			
	進捗状況【活動】	進んでいる					
	計画変更(次年度以後)	取組内容	無	コメント	本事業については, 助成金となる予算の有無で事業の存続自体が左右されるため, 平成26年度予算が確定するまで計画値が出せなかったが, その後平成26年度についても予算が付いたため, 平成25年度同様, 助成事業を継続していけることとなった。		
計画値		有					
評価	評価者	山崎 彰美	※重要度A事業は副市長, 重要度B事業は部局長を評価者とする				
	総合評価(A・B・C)	B	コメント 指示事項	事業継続することで今後さらなる成果が期待できるので, 引き続き事業の周知等に力を入れること。			
	方向性	継続実施					